岡山医学会雑誌　第130巻　December 2018, pp. 181-182

病院紹介

国家公務員共済組合連合会 舞鶴共済病院

病院長 布施春樹

はじめに

舞鶴市は京都府北部（旧丹後国）に属し，日本海に面する港湾都市として知られています．歴史的には1901年（明治34年）10月に舞鶴鎮守府が設立され，その初代長官に東郷平八郎が就任したことは有名です．その東郷が生み出したといわれる「肉じゃが」は，東舞鶴が発祥地とされる説もあります．1943年（昭和18年）には舞鶴鎮守府は日本海軍の重要拠点として強化され，海軍諸施設が多数立地するに伴い，東西に分かれていた東舞鶴市と旧舞鶴市が合併しました．戦時中は後方支援都市として軍需産業が振興しましたが，度重なる空襲に襲われ，軍需産業は衰退しました．戦後はアメリカ進駐軍舞鶴分遣隊が駐屯し，舞鶴港が政府の在外邦人引き揚げ港に指定され，大陸からの引き揚げの拠点となったことは周知のごとくです．1945年から13年に渡って66万人余りの引き揚げ者が舞鶴に降り立って母国の土を踏みしめたわけです．その時の「岸壁の母」は歌謡曲にもなり，あまりにも有名です．現在，当時の引揚桟橋のあったところに「舞鶴引揚記念館」が建っています．

その当時最大15万人いた舞鶴市も，現在は８万２千人程度の人口です．この中に４つの公的総合病院（国立病院機構舞鶴医療センター，市立舞鶴市民病院，舞鶴赤十字病院そして当院）が存在していました．

平成16年３月に舞鶴市民病院内科医師13人の集団辞職で主に救急医療を担っていた舞鶴市民病院が崩壊し，舞鶴市の医療再編が京都府の医療再編計画とともに始まったわけです．その結果，舞鶴市民病院は療養型病院となり，舞鶴医療センターは一般病床280床，舞鶴日赤病院は150床，そして当院は300床病床で舞鶴市内最大の急性期病院としての責務を果たしていくことになります．

当院の沿革

舞鶴共済病院は，明治40年３月，舞鶴海軍工廠職工共済会病院として設立され，専ら海軍工廠（造船所）の組合員およびその家族の診察に従事していましたが，終戦により海軍省の解体とともに，昭和20年10月に，財団法人共済協会舞鶴共済病院として一般市民の診療にあたることとなりました．昭和25年12月，旧令特別措置法により共済協会は解散し，病院の運営は非現業共済組合連合会（昭和33年に法改正により現名称に変更）の管理病院（旧令病院部）となり，地域の中核医療機関として，111年間の長い期間に亘って，その役割を果たしています．連合会病院は全国32病院あり（その代表的病院は虎の門病院です），グループ病院としての連携もあります．

当院の理念と基本方針

理　　念

「当院は患者さんに良質で安心していただける医療を提供します」

基本方針

①良質で安全な医療（私達は安全で質の高い医療をめざし患者さんの信頼を得るように全力を尽くします）

②患者さんを中心とした医療（私達は患者さんの人格・権利を尊重し充分な説明を行うとともに患者さんの了解のもとに医療をおこないます）

③地域との積極的な連携（私達は地域の医療ニーズに応え地域と密接な連携を大切にいたします）

病院の概要

病床数：300床（ICU・CCU 10床）

診療科目：総合内科，血液免疫内科，消化器内科，循環器内科，神経内科，呼吸器内科，外科，心臓血管外科，整形外科，泌尿器科，耳鼻咽喉科，産婦人科，眼科，皮膚科，麻酔科，小児科，循環器小児科，リハビリテーション科，放射線科，歯科口腔外科．

併設施設：老健施設「すこやかの森」100床

職員：医師38人，薬剤師12人，栄養士（管理栄養士）７人，診療放射線技師10人，臨床検査技師20人，臨床工学技士10人，理学・作業・言語士10人，看護師284人，事務員69人，その他59人．計525人（平成30年３月１日現在）

主な病院機能

日本医療機能評価機構認定病院（Ger１）
地域医療支援病院
二次救急告知病院（病院群輪番制参加病院）
臨床研修指定病院（基幹型）
DPC 対象病院
地域周産期母子医療センター
BFH（赤ちゃんにやさしい病院）認定施設
一般病棟入院基本料７対１
各種京都府医療助成制度取扱い
各種学会専門医・認定医指導施設

当院の現状

舞鶴市を中心に北部京都全体を医療圏とし，20診療科，300床（ICU・CCU10床を含む）の一般病床を有する急性期病院として，医師38人をはじめ計525人の職員を有しています．主な病院機能としては，二次救急告知病院，地域周産期母子医療センター，日本医療機能評価機構認定病院（Ver6.0），BFH（赤ちゃんにやさしい病院）認定施設などがあり，また基幹型臨床研修指定病院として初期研修医を受け入れています．約10年前から DPC 対象病院として機能し，４年前から７対１看護体制を導入しています．

また６年前に地域医療支援病院の認定を受け，まさしく地域の基幹病院としてその中心的存在となっています．

今後の展望

当院の北部京都医療圏の中の基幹病院として高度な急性期医療を担う役割を果たすため，４年前に新病棟を竣工しました．特にがん・循環器に対する医療について，疾患別センター化によるトータルな医療の提供を目指しています．循環器については「循環器センター」として京都府から認可されましたので，循環器内科，心臓血管外科が一体となり心疾患医療の拠点として機能できる体制が整いました．

がん治療におきましても，「がん診療推進病院」の取得をめざし，地域における外科，消化器内科，血液免疫内科，総合内科，泌尿器科，産婦人科，耳鼻咽喉科，口腔外科等の集学的治療（手術，抗がん剤，放射線治療）および緩和ケアを提供することで地域におけるがん治療の中心的存在となっています．その他腎臓・透析機能についても，北部京都最大の透析センター（35床）を有し，高度透析医療を一手に担っています（新病棟に拡張した透析センターを整備しました）．また，舞鶴市の周産期機能は当院が周産期医療２次病院として機能しており，年間500～600件の分娩をしています．また消化器センターを立ち上げ，消化器内科，消化器外科が外来・病棟ともチームで診療できる体制をとりました．

さらに現在既存病棟・施設の改修中で，救急室の充実・強化など急性期医療に対応した施設になります．「新生」舞鶴共済病院が，平成27年３月にすべて完成しました．

さらに今年度中にロボット支援手術装置「da Vinci」を購入し，来年度から施行することが決定しています（これには舞鶴市からの補助金が支援されました）．

舞鶴市は人口８万２千人の中で公的病院が当院を含め３病院あり（舞鶴医療センター：一般病床280床，舞鶴日赤病院：一般病床150床，当院：一般病床300床），今後まさしく地域医療再生のモデル都市となろうとしています．当院は舞鶴地区最大の病床を持つ病院として，医療機能の「選択と集中」「分担と連携」を考慮しながら，前述した体制を中心となって作り上げ舞鶴市民の健康を守っていくことになります．

そのために医師の確保は最重要課題です．岡山大学からは当時の森田教授のご英断で，麻酔科医師２名の派遣を平成21年より開始して頂きました．さらに森松教授のご理解の下支援を継続していただき，大変ありがたく感謝しています．現在年間800件以上の全身麻酔を担当して頂いています．

その他職員の福利厚生で「職員旅行」「ボーリング大会」などがあり，その他地域の祭り（ちゃった祭りの中のレガッタレースへの参加）もあり，年末は大忘年会で老健施設も含めた全職員との親睦を図っています．

おわりに

当院が魅力ある病院として岡山大学から選ばれる病院となるべく，さらに努力してまいります．

今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます．

平成30年９月３日受稿
〒625-8585　京都府舞鶴市字浜1035番地
電話：0773-62-2510　FAX：0773-64-4301
E-mail : fuse_haruki@maiduru.com
http: //www.maiduru.com/